

報道関係各位

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長兼 COO 福島 保
(コード番号 9783 東証・大証第一部)**<第1回 中学校英語に関する基本調査（生徒調査） 速報>****中学生の6割は「英語が苦手」****英語の必要性は強く実感**

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)のシンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」では、2009年1月～2月に、全国の中学2年生2,967名を対象にして、中学生の英語学習の実態と、英語や外国に対する意識に関する調査を実施しました。主な調査結果は以下のとおりです。

1. 6割が英語に対して苦手意識を持っている。

- 英語を「苦手」と感じている中学生は61.8%。
- そのうち、約1割は「中学校に入学する前」に、6割以上は中学1年生のうちに「苦手」と感じている。
- 「英語を使って外国の人と話してみたい」「外国の人と友だちになりたい」は半数程度にとどまる。

2. 大人になる頃には、今よりも英語を話す必要がある社会になっていると感じている。

- 「英語が話せなくても、将来、困ることはない」と感じている中学生は35.0%、「自分たちが大人になる頃には、今よりも英語を話す必要がある社会になっている」と感じている中学生は71.1%であった。
- しかし、自分自身が積極的に英語を使うことをイメージしている中学生は少なく、「将来、外国に留学したい」は20.4%、「将来、英語を使う仕事をしたい」は14.6%であった。

3. 中学生は小学校英語を「楽しかった」と感じている。

- 小学校で英語の授業や活動をした経験がある生徒は約9割。そのうちの7割以上が、「内容が簡単だった」「楽しかった」と回答。
- しかし、「外国や英語に興味をもった」という中学生は41.8%と半数に満たない。

本調査から、中学生の多くが英語に対して苦手意識を持つ反面で、将来は英語を話す必要性が高まっていくと感じていることがわかりました。ただし、自分から積極的に英語を使うことまでは考えていないようです。

また、本調査の対象となった中学生が受けてきた小学校英語(活動)は、今後必修化される「外国語活動」とは異なり、時数や教材などの条件整備が十分ではない段階のものです。そのためか、「楽しかった」という印象は残っているものの、異文化や英語に対する興味が十分に高まるまでには至っていません。

今後は、子どもたちがコミュニケーションの楽しさや英語を使う楽しさ、また、英語が役立つことを実感する体験を増やし、異文化や英語に対する関心を高めていくことが重要になると考えられます。

*「第1回中学校英語に関する基本調査」は、今回報告する中学2年生を対象とした生徒調査と、2009年4月に報告した全国の公立中学校の英語教員を対象とした教員調査で構成されています。教員調査の結果は Benesse 教育研究開発センターの WEB サイト(<http://benesse.jp/berd/>)で公開しております。

【本件に関するお問い合わせ先】株式会社ベネッセコーポレーション 広報・IR部 (担当:十河、坂本、西澤、濱野)
電話:042-356-0657 FAX:042-356-7301

■調査概要

調査テーマ	中学生の英語学習の実態と英語や外国に対する意識
調査方法	学校通しの質問紙による自記式調査
調査時期	2009年1月～2月
調査対象	全国の中学2年生 2,967名
調査企画・分析メンバー	吉田研作(上智大学教授)、根岸雅史(東京外国語大学教授)、酒井英樹(信州大学准教授)、鈴木利彦(早稲田大学専任講師)、工藤洋路(東京外国語大学専任講師)、重松靖(国分寺市立第三中学校校長)、杏澤糸(Benesse 教育研究開発センター主任研究員)、木村治生(Benesse 教育研究開発センター主任研究員)、佐藤暢子(Benesse 教育研究開発センター研究員)、福本優美子(Benesse 教育研究開発センター研究員)、初海真理子(Benesse 教育研究開発センター研究員)

■主な調査結果

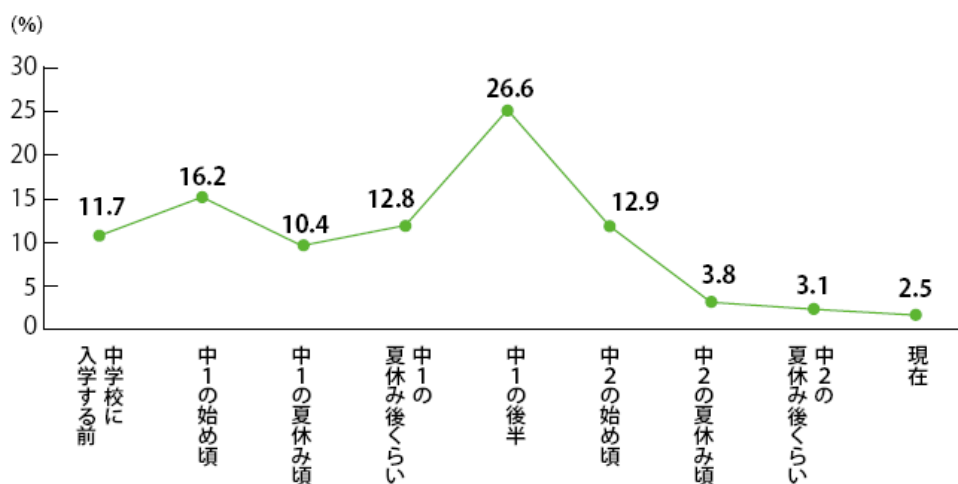
1. 6割が英語に対して苦手意識をもっている。

Q. あなたは英語が得意ですか、苦手ですか。

図1 英語の得意・苦手

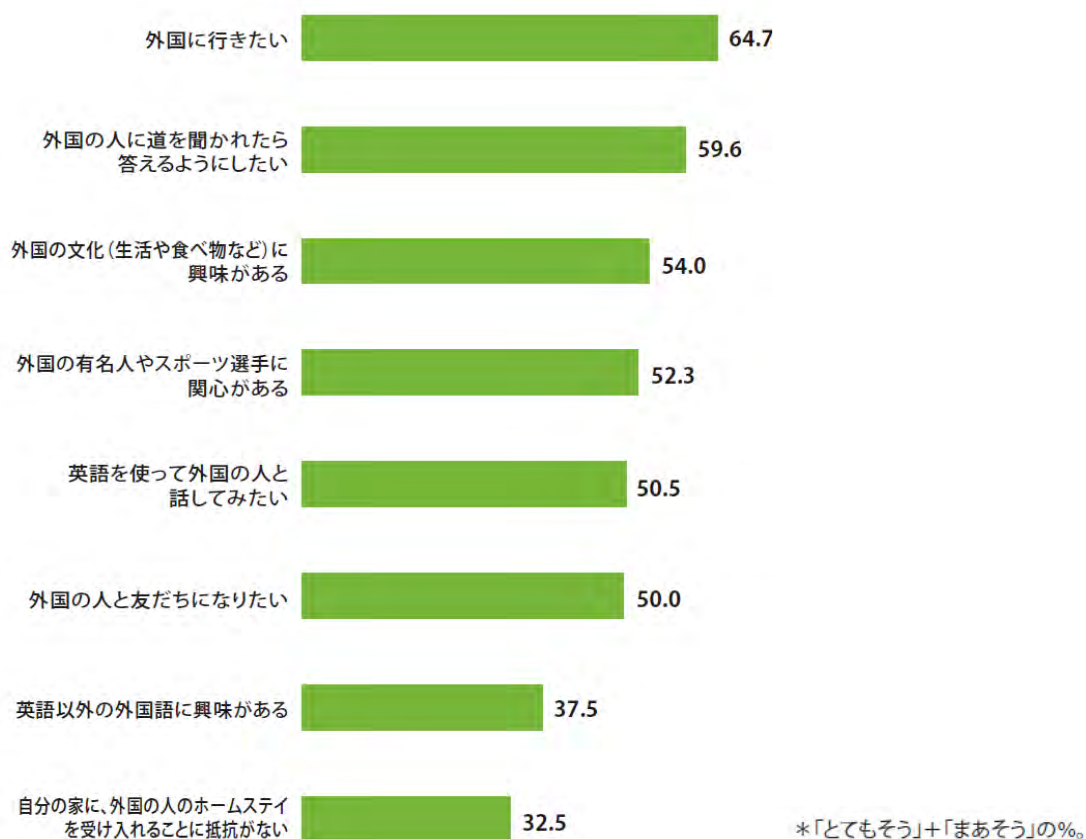


図2 英語を苦手と感じるようになった時期



*「現在」は、本調査を実施した1～2月(中2の後半)を示す。
 *英語の「得意・苦手」について「やや苦手」「とても苦手」と回答した1,833名のみを対象。
 *「無回答・不明」は省略。

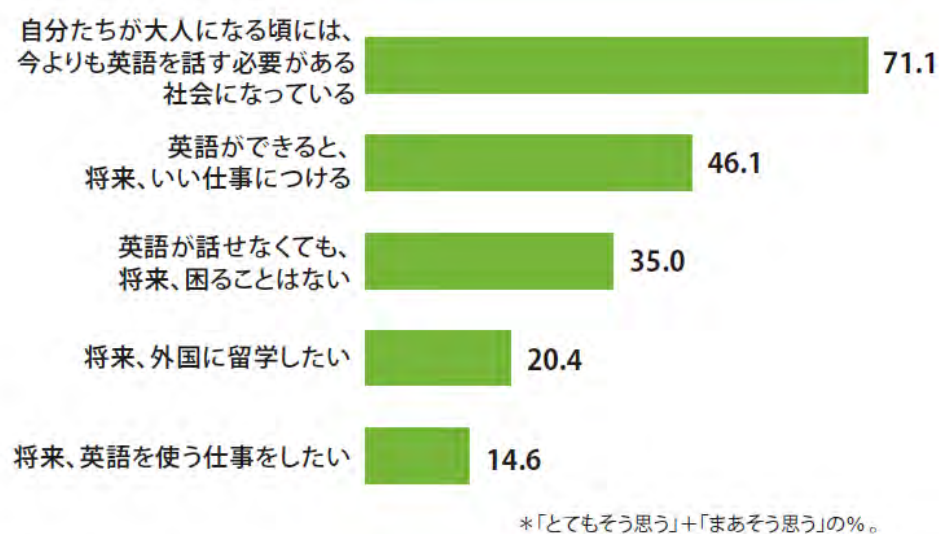
図3 次のようなことはどれくらいあてはまりますか。(%)



2. 大人になる頃には、今よりも英語を話す必要がある社会になっていると感じている。

Q. あなたは次のようなことについてどう思いますか。

図4 外国や英語に関する将来の意識 (%)



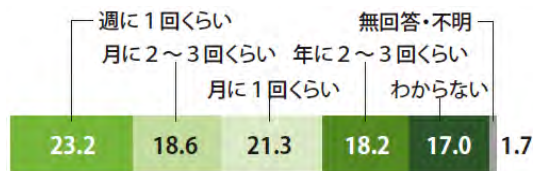
3. 中学生は小学校英語を「楽しかった」と感じている。

Q. あなたが小学生のとき、学校で英語の授業や活動はありましたか。
 SQ. 小学校での英語の授業や活動はどれくらいありましたか。

図5 小学校英語の経験の有無 (%)



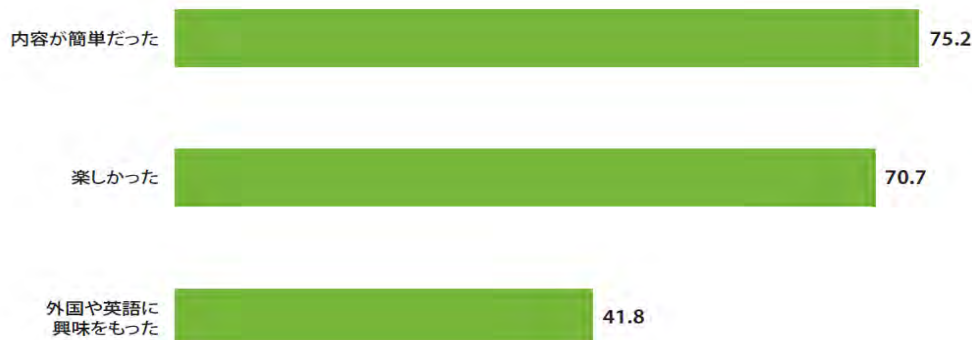
図6 小学校英語の頻度 (%)



* 小学校英語の経験の有無について「あった」と回答した2,713名のみを対象。

図7 小学校英語に対する意識 (%)

Q. 小学校での英語の授業や活動はどうでしたか。



* 小学校英語の経験の有無について「あった」と回答した2,713名のみを対象。
 * 「とてもそう」+「まあそう」の%。

『第1回中学校英語に関する基本調査』の概要

● 教員調査 (2009年4月に速報)

調査テーマ 公立中学校における英語教育の実態と教員の意識
 調査対象 全国の公立中学校の英語教員 3,643名
 調査時期 2008年7月～8月

* 当調査結果については以下に掲載中

http://benesse.jp/berd/center/open/report/chu_eigo/kyouin_soku/index.html

● 生徒調査 (今回発表)

調査テーマ 中学生の英語学習の実態と英語や外国に対する意識
 調査対象 全国の中学2年生 2,967名
 調査時期 2009年1月～2月

＜ベネッセ教育研究開発センターの活動／WEBサイトについて＞

ベネッセ教育研究開発センターでは、今後も、時代の変化に即したテーマで、子どもや教育に関する調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。ベネッセ教育研究開発センターのWEBサイト (<http://benesse.jp/berd/>) では、今回の調査データのほかにも、さまざまな独自調査のデータ・報告書を公開しています。